

令和5年度公共事業 再評価諮問箇所個別資料

森林整備課 森林基盤整備交付金事業 1件

1 公共事業再評価諮問箇所一覧表、B/Cの考え方

P1~

2 個別事業箇所資料

- ・ 公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等
- ・ 再評価対象事業箇所調書
- ・ 個別箇所説明資料

① 森林基盤整備交付金事業

P3~

令和5年度公共事業再評価諮問箇所一覽表

森林整備課

令和5年度公共事業再評価諮問箇所一覽表

No.	事業名	事業箇所 (地区名)	事業年度	進捗率	対応方針
1	森林基盤整備交付金事業 (道整備交付金)	二里・下分線	H26～R8	59.1%	継続

森林基盤整備交付金事業(二里・下分線)のB/Cの考え方

○総便益(B):

林道開設により木材の生産及び森林整備に係る経費の縮減額。並びに一般交通や災害時の迂回路利用としての効果額等

【便益の詳細】

- 木材生産等便益
(木材生産確保・増進)
- 森林整備経費縮減等便益
(森林管理等経費縮減、森林整備促進)
- 災害等軽減便益(災害時迂回路等確保)
など

○総費用(C): 林道開設経費+事業期間中及び林道開設後の40年間に要する維持管理費

○費用便益比: 総便益(B) / 総費用(C)

令和5年度公共事業再評価諮問箇所「**継続**・中止」理由書等

(課名：森林整備課)

事業名 (路河川等名)	森林基盤整備交付金事業（道整備交付金） （二里・下分線）
継続・中止理由	<p>事業の進捗は、令和4年度末で59.1%となっており、現在、令和8年度の完成に向けて事業を実施しているが、事業効果を発揮するためには、未完了区間の早期完成が必要なため、事業の継続が適当である。</p> <p>なお、当路線は、起点の二里町大里から終点の東山代町滝川内にかけて連絡する総延長6,600mの森林管理道である。</p> <p>当路線の周辺森林は、林内路網が未整備であったため、森林施業における現場までの到達や機材の搬入などが非常に困難であり、森林の整備が遅れるとともに木材の搬出等もできない状況であった。</p> <p>このため、地元関係地区からの強い要望により、平成26年度から周辺森林の施業の効率化の基盤となる森林管理道を整備してきた。</p>
B/Cの算出方法	<p>効果については、林業生産・森林整備経費縮減機能、公益的機能、森林の総合利用機能のうち、定量化が可能なものについて算定し評価する。</p> <p>評価対象期間は、事業期間+40年間（耐用年数）とする。</p> <p>【便益】(B) = 1,296,607千円 ・木材生産等（生産確保・増進） = 139,075千円 ・森林整備経費縮減・促進 = 1,147,874千円 ・災害等軽減 = 9,658千円</p> <p>【費用】(C) = 1,283,463千円 ・事業費 = 1,283,463千円</p> <p>費用対効果 B/C = 1,296,607 / 1,283,463 = 1.01</p>
備考	

令和 5 年度再評価対象事業箇所

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	費用対効果	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)	備考
	森林基盤整備交付金事業 (道整備交付金) (二里・下分線)	当路線は、伊万里市二里町大里から東山代町滝川内にかけて連絡する森林管理道であり、周辺森林の施業の効率化を図り、森林整備を推進するとともに、森林地域としての総合的な利用を行うことにより地域の活性化を図ることを目的とする。	全体事業費：C=13.2億円 計画延長：L=6,600m 幅員(車道)：W=4.0m 工期：H26～R8 (起点) 二里町大里 (終点) 東山代町滝川内	R4末までの開設延長 L=4,130m R4末進捗率59.1% (事業費ベース) ※年平均進捗率7.38%	・林道の利用区域内での大規模な開発による森林面積の変化はない。 ・当該林道の近隣で新たな道路の開設等はない。	B/C=1.01 B/Cは1.0を上回っている。	(コスト削減) ・補強土壁による現地発生土(掘削残土)の活用 ・コンクリート二次製品(L型側溝、L型擁壁)の活用	事業採択後 10年が経過	継続 (理由) ・周辺森林の施業の効率化を図り、森林整備を推進するとともに、森林地域としての総合的な利用を行うことによる地域の活性化を図る。 ・費用対効果は、B/C=1.0以上 (B/C=1.01)である。 ・事業進捗は令和4年度末で約59%で、R8年度に事業完了する見込みであり、事業効果を発揮するため早期完成が必要。 ・森林整備の手入れ不足による自然災害等の発生が懸念される。 また、路網整備は、森林の適切な管理並びに効率的な森林作業に寄与する。 以上のことから完成に向けて事業を継続することとしたい。	

令和5年度公共事業再評価

森林基盤整備交付金事業

にりしもぶん
二里・下分線

【事業採択後、10年間経過】

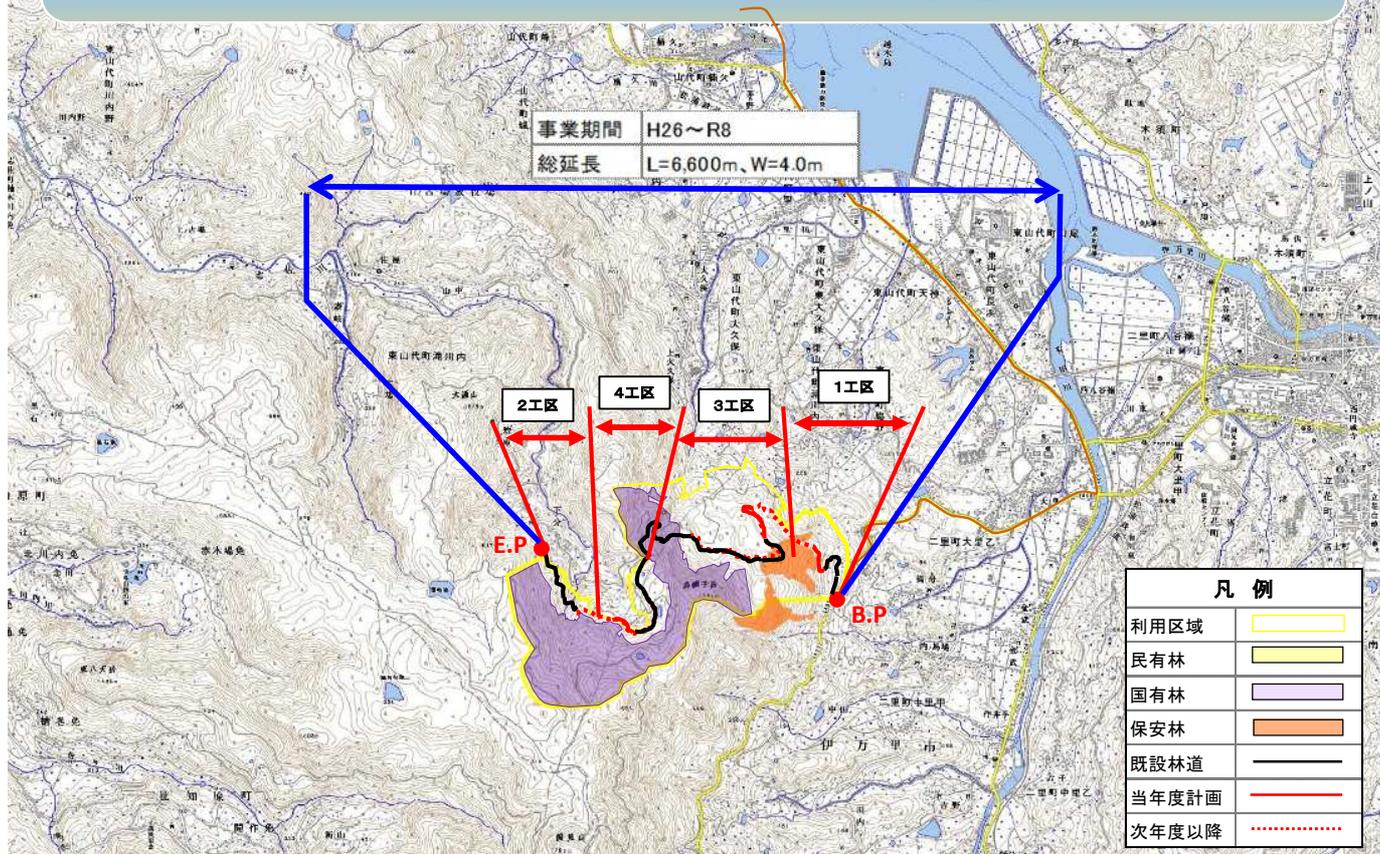
森林基盤整備交付金事業の目的

○目的

周辺森林の施業の効率化を図り、森林整備を推進するとともに、森林地域としての総合的な利用を行うことにより地域の活性化を図る。



位置図及び事業概要 (森林管理道「二里・下分線」)



事業計画の概要・進捗状況

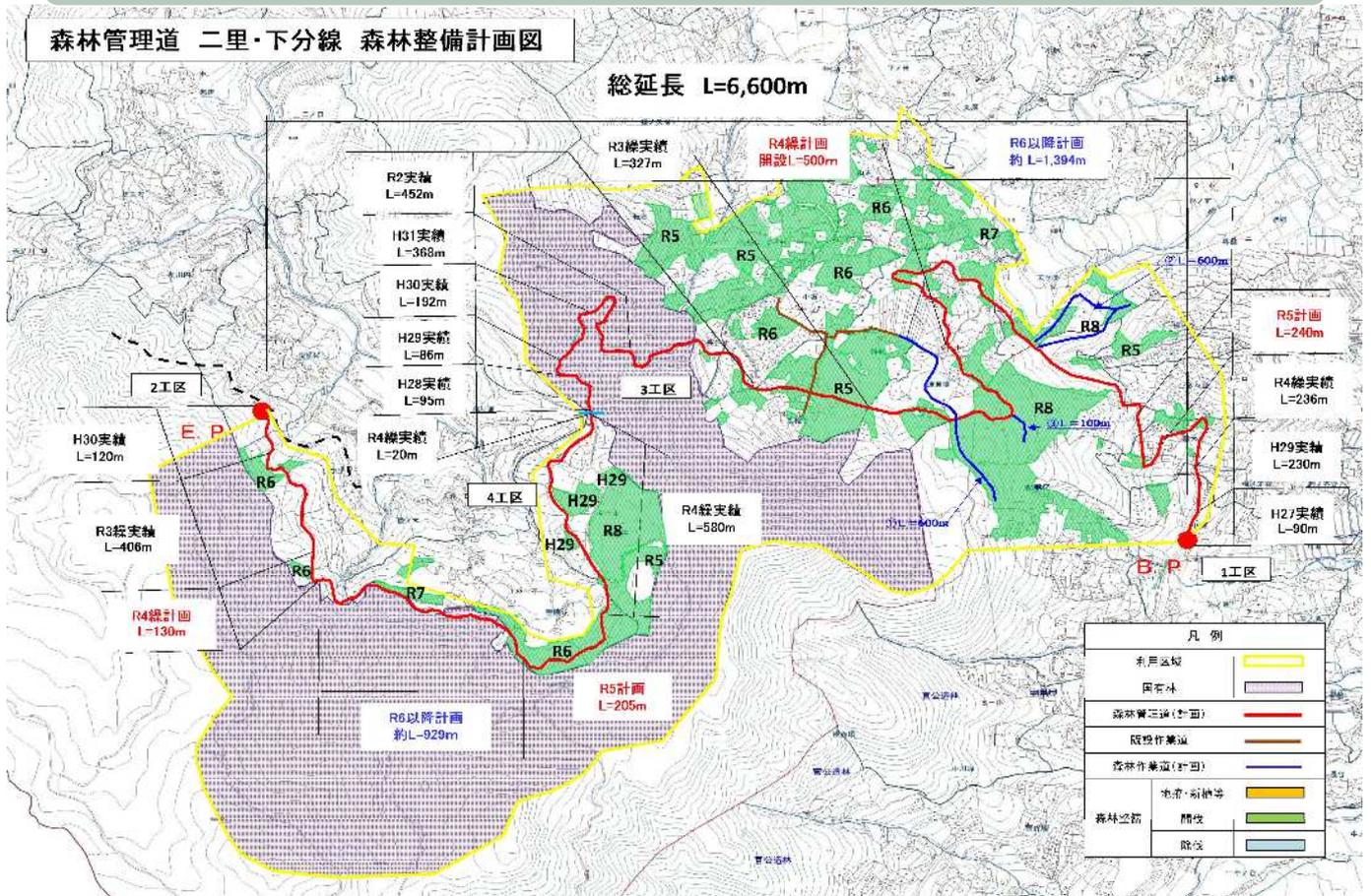
○全体計画

- ・総事業費 : 13.2億円
- ・開設延長 : 6,600m (うち完成延長:4,130m)
- ・幅員 : 4.0m
- ・工期 : 平成26年度～令和8年度(13ヵ年)
- ・主要工事内容 : 林道開設工事
(道路土工、法面保護工、アスファルト舗装など)
- ・利用区域面積 : 276ha

○事業の進捗状況

	令和4年度まで	令和5年度	令和6年度以降
事業費(億円)	7.8億	1.9億	3.5億
進捗率(%)	59.1%	14.3%	26.6%

森林整備計画図



社会経済情勢等の変化

- ・林道の利用区域内での大規模な開発による森林面積の変化はない。
- ・当該林道の近隣で新たな道路の開設等はない。

費用対効果

○総便益(B): 林道開設により木材生産経費の縮減額及び森林整備に係る経費の縮減額。並びに一般交通や災害時の迂回路利用としての効果額等

(内訳)

○木材生産等便益	1.39億円
○森林整備経費縮減等便益	11.47億円
○災害等軽減便益等	0.10億円

○総費用(C): 林道開設経費＋事業期間中及び林道開設後の40年間に要する維持管理費

費用便益比

$$\frac{\text{総便益 (B) } 12.96 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C) } 12.83 \text{ 億円}} = 1.01$$

(B/C=1.0以上)

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- ・補強土壁による現地発生土(掘削残土)の活用。
- ・コンクリート二次製品(L型側溝、L型擁壁)の活用。

(代替案の検討)

特になし

対応方針

○周辺森林の施業の効率化を図り、森林整備を推進するとともに、森林地域としての総合的な利用を行うことによる地域の活性化を目的としている。

○費用対効果は、 $B/C=1.0$ 以上 ($B/C=1.01$) である。

○事業進捗率は令和4年度末で約59%で、R8年度に事業完了する見込みであり、事業効果を発揮するため早期完成が必要。

○森林整備の手入れ不足による自然災害等の発生が懸念される。また、路網整備は、森林の適切な管理並びに効率的な森林作業に寄与する。

○以上のことから完成に向けて事業を継続することとしたい。